

男たちが一人の女を
取り囲んでいた
一人ひとり黒帯を有した強者たちだ

しかしその男たちは女を
攻めあぐねているようだ



女は張り詰めた空気の中で一人
涼し気な顔を浮かべている

その洗練された動きは
舞を踊るかのように優雅だった

たった一人で
複数の男たちを圧倒していた



その女と
一瞬目が合った

表情からは
何も読み取れない

哀愁を感じるその目は
僕に何かを
語りかけてくるようだった



いまだ!

男たちは示し合わせ
一斉に襲いかかる

2

瞬間
空を切るような音が
響いた





ぎゃあっ

ぐえっ

うぐっ

男たちは一瞬のうちに返り討ちにされ
床に叩きつけられた

女は無表情で男たちを
見下ろしていた

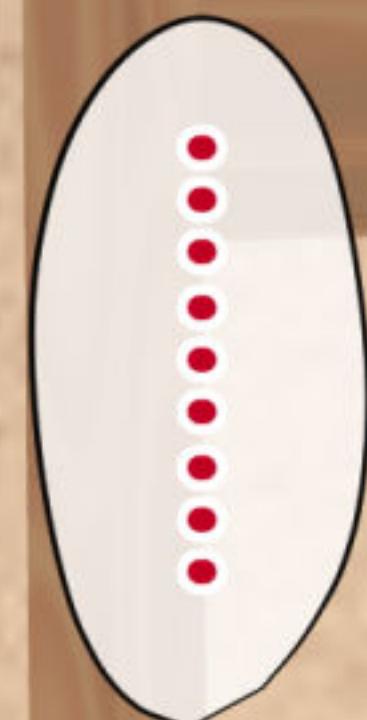
タツキ
では私は自室に戻ります

今日の私の動きをしつかりと
覚えておくように

はい！
師範！



彼女の名前は凍花^{とうか}



僕の父の道場で働いている
若くして師範を
務めている才女だ



物静かで常に
落ち着いている

道場の後継の僕への
指導や教育も
任されていた

じ

.....

父からの信頼が
あつい女性である



師範の視線を感じる

師範
どうかしましたか？
まだ何か用でも？

あ！
ああ……

いえっ
特に何もありません



師範は時折僕を見つめてくる
その視線はどこか熱っぽい

普段口数が少ない彼女

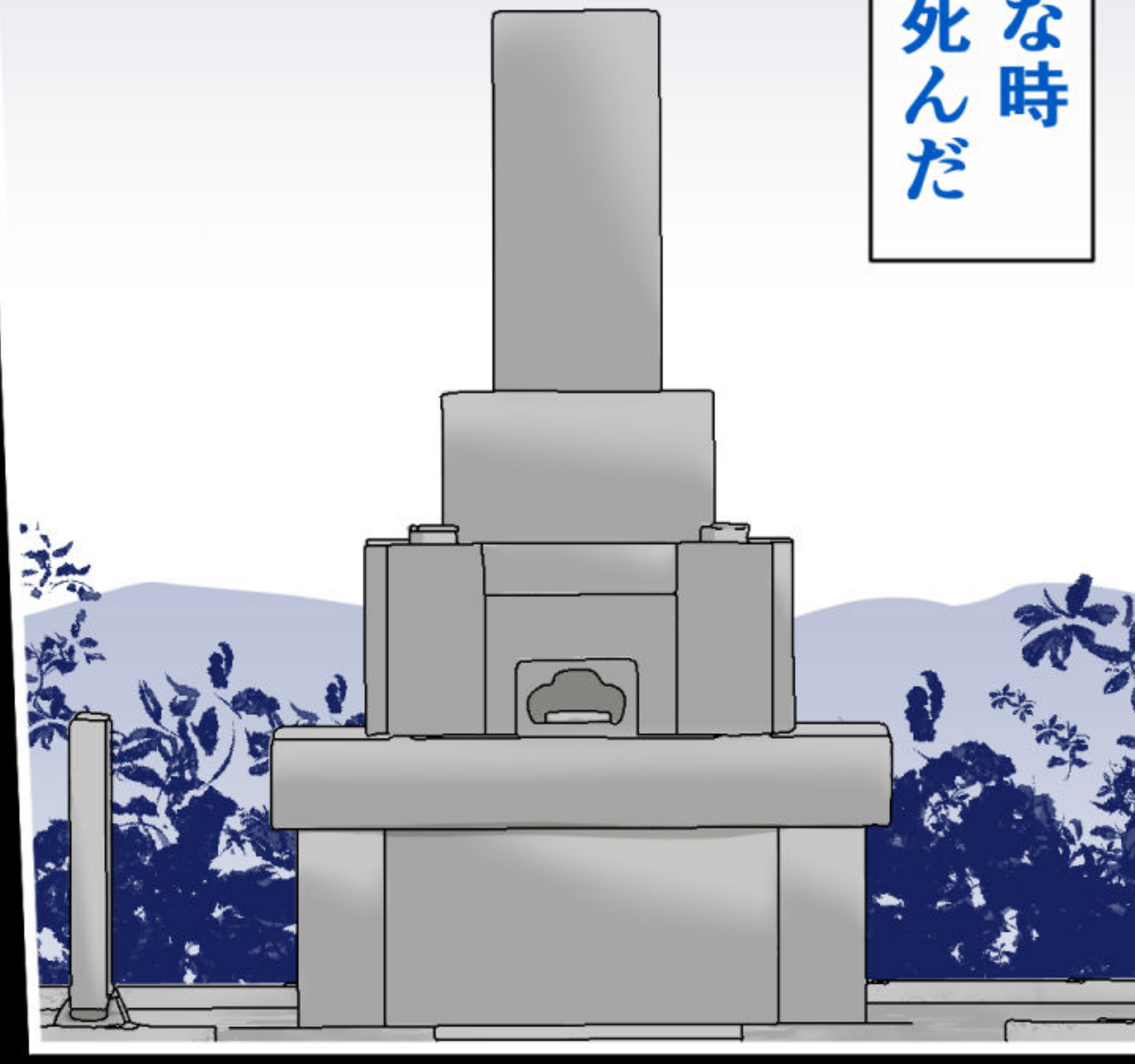
何を考えているかわからなくて
正直僕は師範が苦手だった



新藤流を継ぎこの道場で
多くの門下生を指導していききたい
それが僕の夢だった

父のように強くなれるよう
毎日鍛錬に励んだ

そんな時
父が死んだ

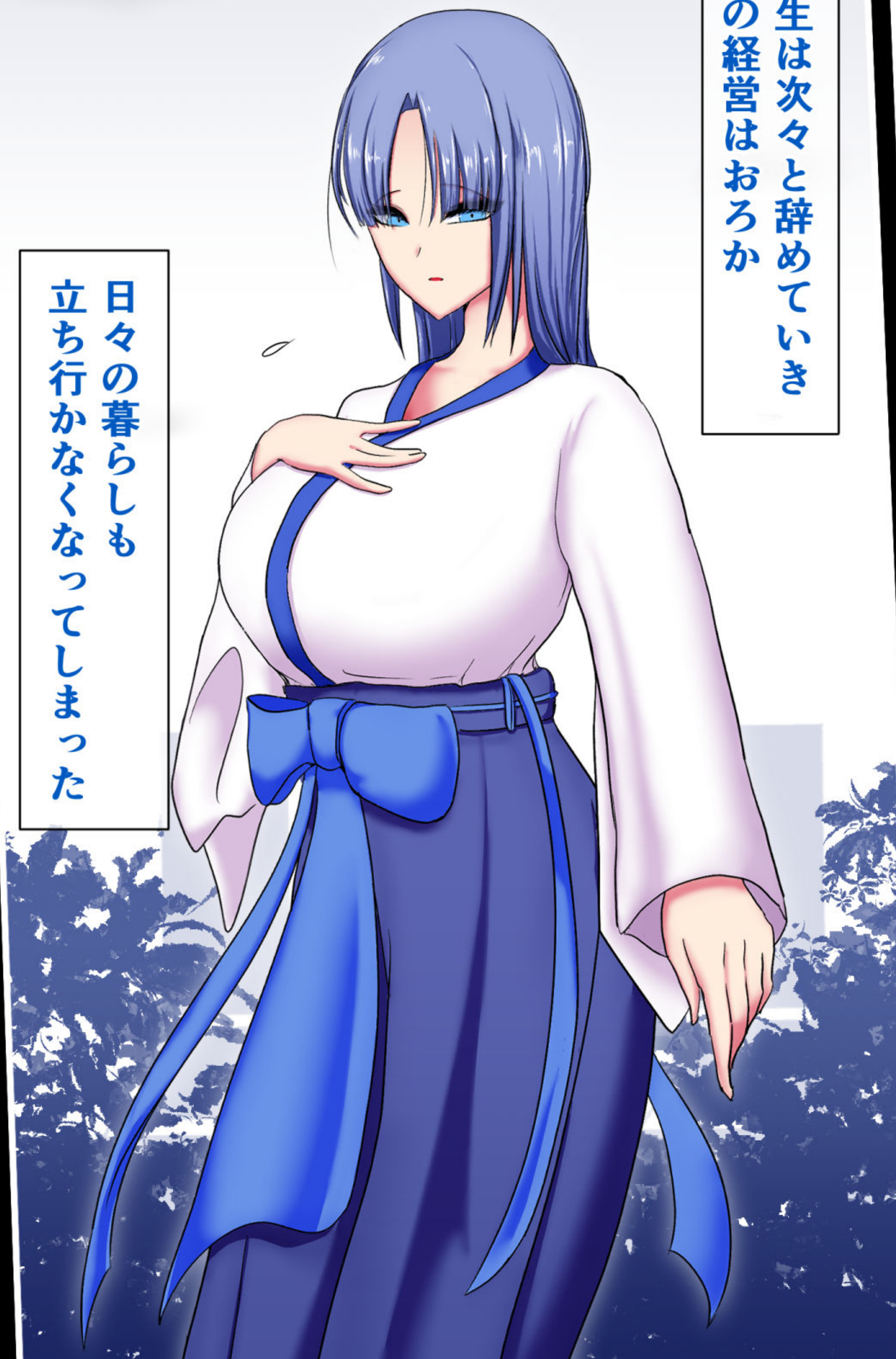


心臓に病を患い
1年も経たず病死した



門下生は次々と辞めていき
道場の経営はおろか

日々の暮らしも
立ち行かなくなってしまう



ある日
師範に連れられて
やってきたのは



黒崎流という
名の知れた流派の
道場だった



師範から学問を学び
稽古を付けてもらう
日々がまた始まった



師範はどんな状況でも
凜としていて頼もしかった



困った時は
お互い様ですから

ほっほっほ

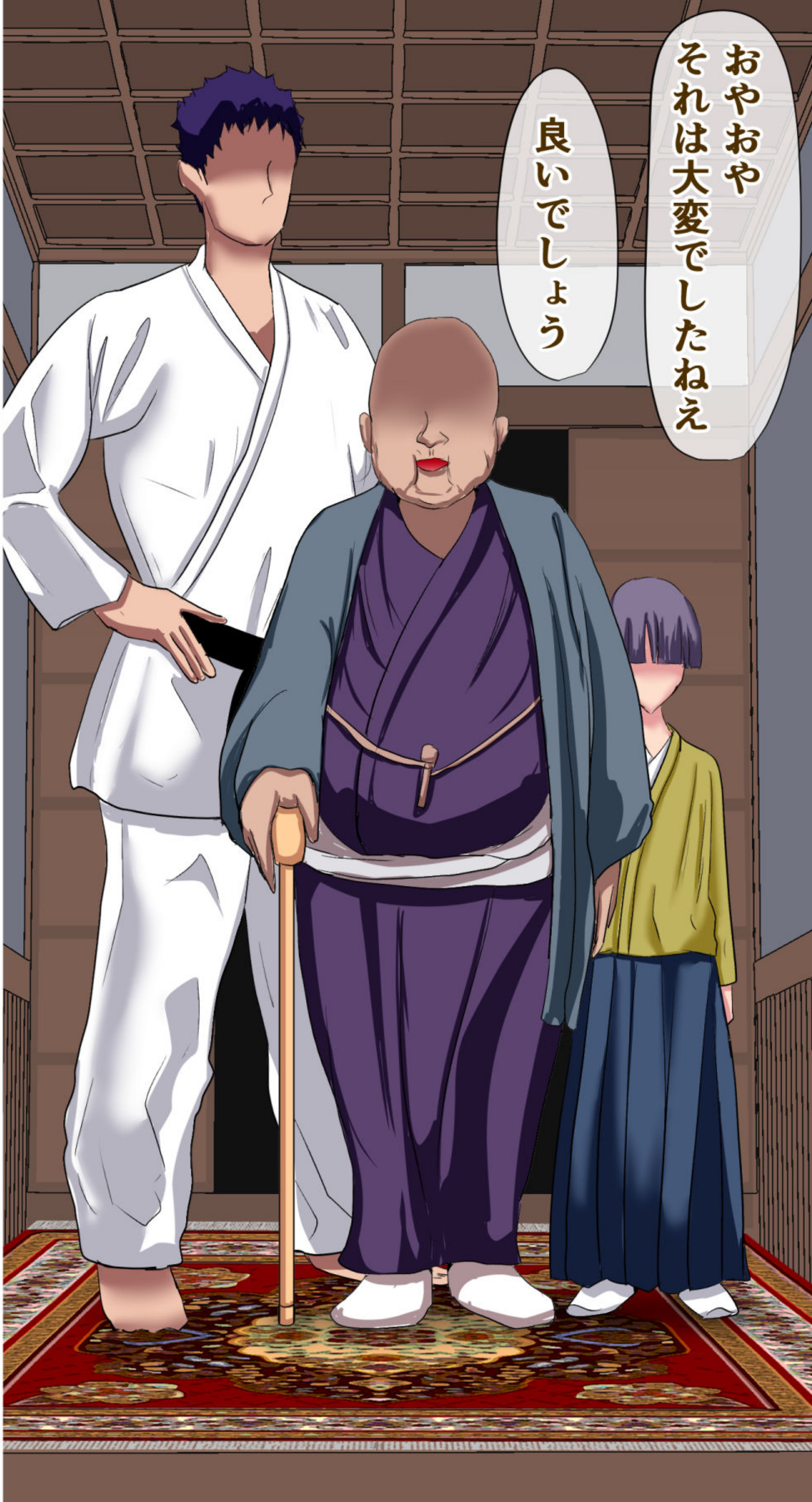


黒崎家から衣食住を
提供してもらった僕たちは
不自由なく暮らせるようになった



おやおや
それは大変でしたねえ

良いでしょう



何とか生活も
落ち着いてきましたね

私達は黒崎家の
ご厚意で不自由なく
暮らせています

日々感謝して
粗相のないように
していきましょう

はい！



こうやって生活出来ているのも
何もかも師範が手回し
してくれたおかげだ

師範がいてくれれば
この先どんなことがあっても
大丈夫なような気がした

師範に対して苦手意識も
なくなり始めてきた…
そんな頃だった



ん……っ

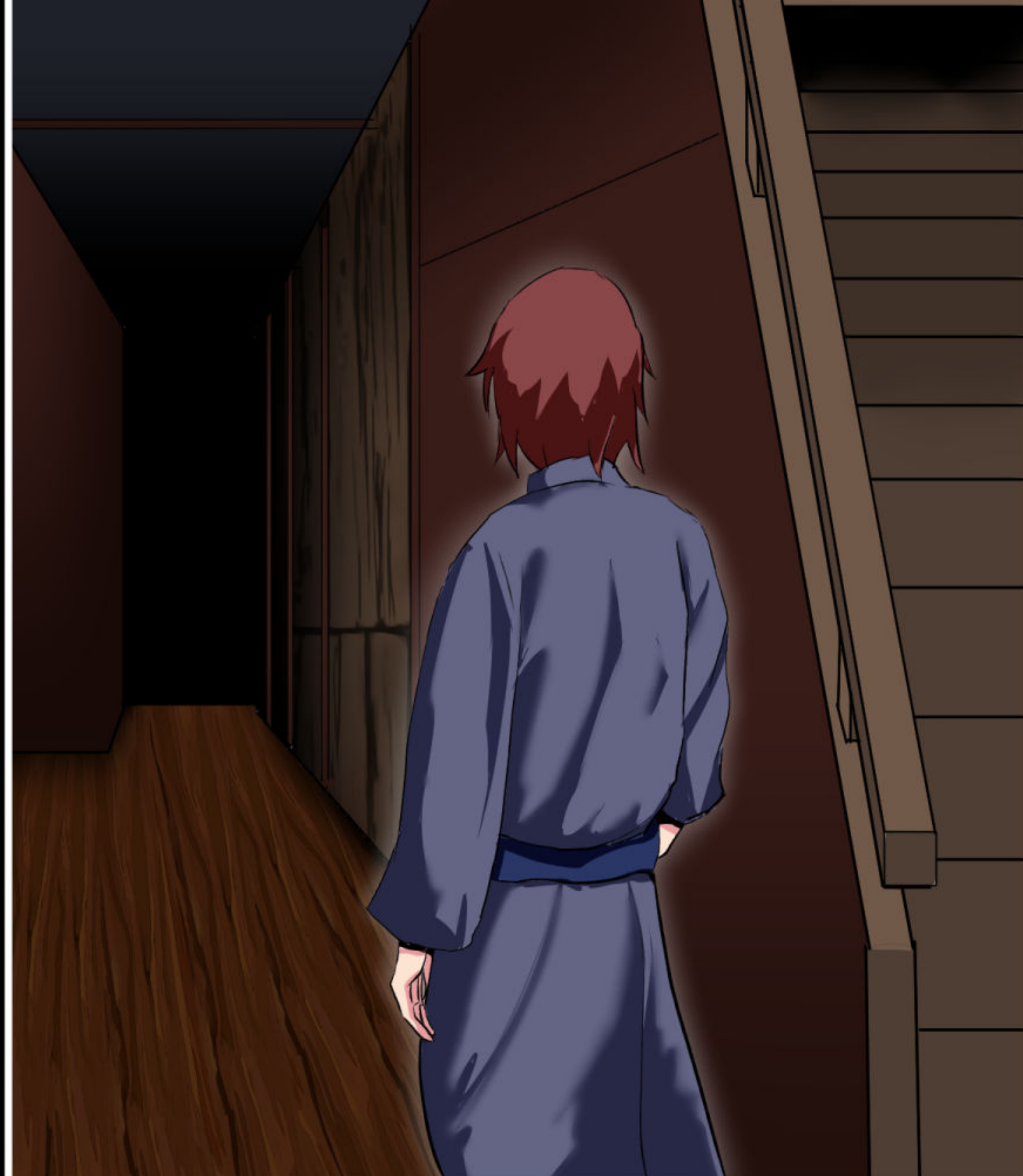
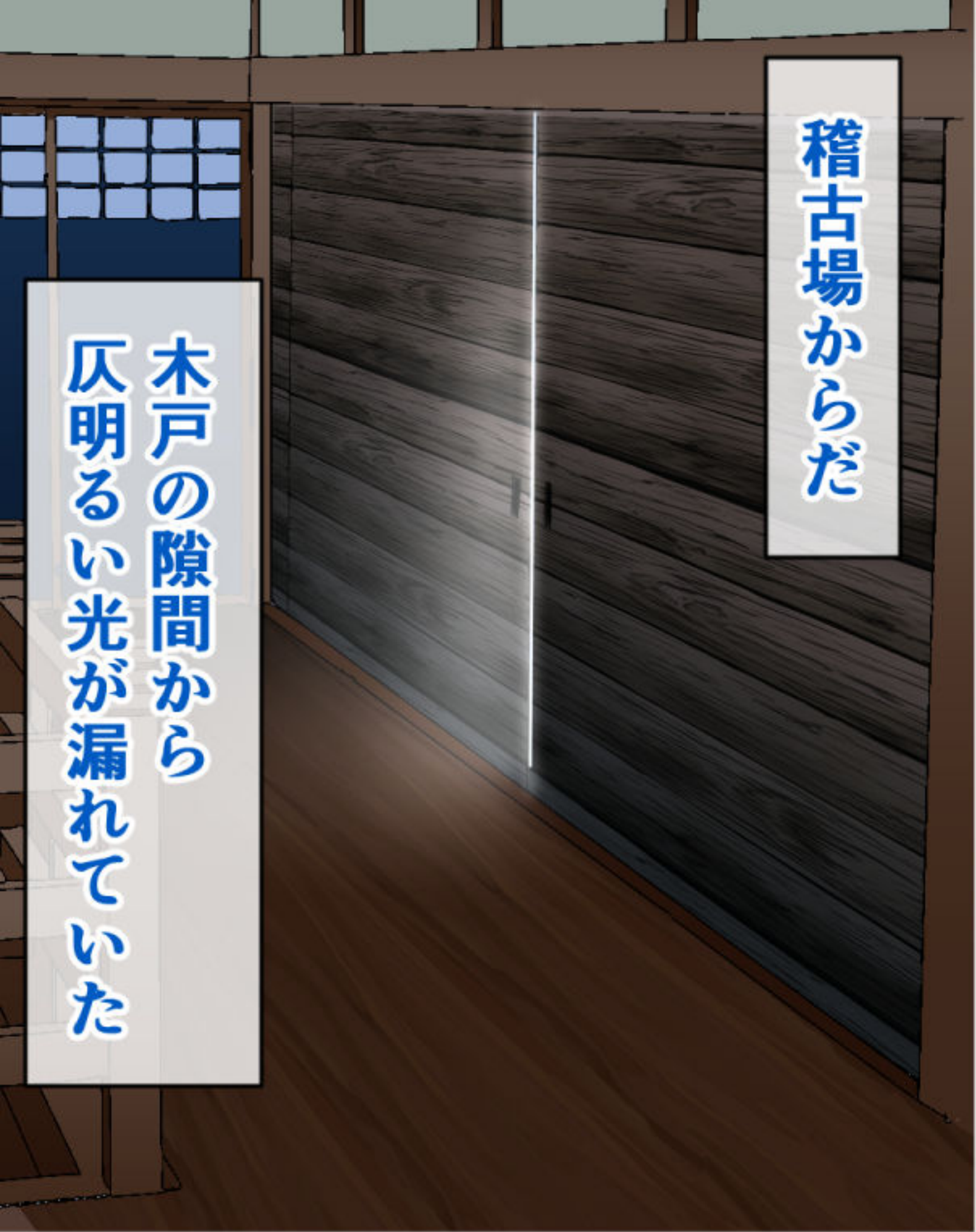
夜中尿意で目が覚めた

あれ……？
師範？

隣の布団に寝ているはずの
師範がいなくなっていた

便所は隣の本館にあった
僕たちの部屋から
少し離れている

もしかしたら
師範も用を足しに
起きたのかもしれない



音は人の嗚咽だった

うっ

えぐっ

ううっ

静まり返った稽古場
真ん中で誰かが倒れている

聞き覚えのある声

ひっく

うっ

その声の持ち主を
目を凝らし認識する

んんっ

そこにいたのは……

あられもない姿で横たわり



泣きじゃくる師範だった

ううっ

股間から白濁とした液が
止めどなく溢れている

ゴ
ゴ
ゴ
ツ

ハ
ア

ハ
ア

しは...

!!



師範の横に
もう一人誰かいた



おい
まだ終わってねえぞ
とつとと股開けや

はっ
はい...

タツキが深夜の稽古場で目にしたのは凍花が誰かに犯された姿だった。

知らなかった黒崎家と凍花の関係とは…

- ・種付けプレスしながらビンタ
- ・集団レイプでボロ雑巾の
ように犯され虫の息
- ・踏みつけ ・顔面ぶっかけ ・罵倒

…ハード凌辱描写が多めです。
タイトル通りですが
全てのシーンで泣く描写があります。

禁断の師弟愛の物語。
是非、製品版もお楽しみください。